

令和2年度第4回社会教育委員の会議

令和2年10月19日(月)

午前9時30分開会

開催日時	令和2年10月19日	開会 9時30分 閉会 11時07分	
場 所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		
出席委員	議 長 原田 隆司 副 議 長 柴田彩千子 委 員 富田謙次郎 委 員 城 瑞枝	委 員 長坂 寛 委 員 諏訪 啓二郎 委 員 福井 高雄 委 員 森本 榮子	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 藤本 裕 生涯学習課長 関 次郎 生涯学習部オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 内田 雄介	図書館長 菊池 幸子 公民館長 小野 朗	
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 1名		
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 会議録の承認について</li> <li>(2) 第4次生涯学習推進計画について</li> <li>(3) 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会について</li> <li>(4) その他</li> </ul>
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第51回関東甲信越静社会教育研究大会について</li> <li>(2) 令和2年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会について</li> <li>(3) その他</li> </ul>

原田議長            それでは、時間になりましたので、社会教育委員の会議第4回を開催いたします。

今日は、石原委員、所委員が欠席の連絡がございます。

初めに、資料の確認をお願いいたします。

小堀生涯学習係長   おはようございます。

資料の確認をさせていただきます。一番上が本日の議題で、次に社会教育委員の会議会議録の第1回と第2回、それと、第4次小金井市生涯学習推進計画の素案。次に資料とだけ書いてあります第4次小金井市生涯学習推進計画における目標（基本理念）について。次、資料1、令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会の開催について。資料2、第5ブロック研修会の検討事項等について。資料3、第62回全国社会教育研究大会新潟大会（第51回関東甲信越静社会教育研究大会、第20回新潟県社会教育研究大会長岡大会）について。資料4、令和2年度社会教育委員の会議等の今後の日程についてと、あと、委員の方だけの配付となりますが、社協情報のNo.83と、とうきょうの地域教育～豊かな出会いを学びを～No.140、図書館だより第58号、小金井月刊こうみんかんNo.509と510、小金井の図書館令和元年度版、令和元年度事業のまとめ 小金井市公民館。

以上です。

原田議長            ありがとうございます。

何か不足のものがございましたら、事務局までお知らせください。よろしいでしょうか。

それでは早速、議題に入ります。まず第1の議題は、会議録の確認です。配付資料の中に、第1回と第2回の会議録、プリントがついております。これは既にメールで各委員には送られておりまして、それぞれチェックしていただいていると思いますが、その上で何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では1番、会議録の確認については、御承認をいただいたということにさせていただきます。

それでは、次に、第4次生涯学習推進計画についてということで、これについては、資料がまず推進計画の（素案）という少し厚い資料と、それから、委員の皆様から御意見をいただいた目標（基本理

念)についての資料、裏表1枚と、これ2つがございます。

これは、事務局のほうから御説明いただけますでしょうか。

ジャパン総研      それでは、私のほうからまず第4次小金井市生涯学習推進計画(素案)と銘打った冊子を御説明いたします。

1枚おめくりください。目次がございます。この計画におきましては、第1章計画の策定にあたってから第5章、そして資料編という構成を考えおります。第1章では計画の策定に当たっての趣旨、計画の期間、位置づけ、策定体制となります。また、策定の背景としましては、近年の動向また市の生涯学習を取り巻く現状・課題、第3次推進計画の評価、それを踏まえまして第4次推進計画に向けた課題という整理をしております。

第3章の計画の基本理念・目標におきましては、理念、方向性そして体系を載せております。

第4章は具体的施策の主体となる部分でございます。施策の展開、方向性を1から3の3つの柱に沿って整理をいたしております。1つ目の柱が「誰もが生涯学習に親しむ環境づくり」、2つ目が「地域と共につくる生涯学習」、3つ目が「生涯学習のネットワークづくり」という柱にしております。方向性でございます。

最後、第5章が計画の推進体制、進捗把握、そして進捗を把握するための指標をまとめて掲載する予定でございます。

資料編は、従来と同様、条例また策定計画、用語解説を載せたいと考えております。

まず簡単にざっと中身を御紹介いたします。

1ページからでございますが、策定の趣旨、こちらは、生涯学習という言葉も広く普及していて、生涯学習の理念というものが教育基本法の中でも明記されて、生涯学習社会の実現を目指すという方向性が明確に国で打ち出されているということを踏まえまして、また近年の平均寿命の延伸による人生100年時代というものがフレーズとして出てきております。こうした中、また環境問題や貧困問題、そうした広い意味でSDGsということで、取組が共有されているような問題への学習の関心が高まっている状況、またICTの普及・進化、また新型コロナウイルスの感染の広がりなど、人と人とのコミュニケーションの在り方が大きく変わっている状況でございます。こうした点も踏まえた学習環境づくりというものも必

要ということをお伝えしております。そして、今回第3次計画が終了するに当たりまして、そうした以上述べましたことを踏まえまして、令和2年度末で終了する現行計画を引き継ぐ新たな第4次計画を策定するという趣旨として記載をしております。

続きまして2ページおめくりください。こちらは計画の期間、令和3年度から7年度、また7年度中に改定をしまして、また次の第5次へとなる計画に引き継ぐということを書かれております。計画の位置づけ、計画の策定体制というものを記載しております。

3ページからは策定の背景となりますが、こちらは、生涯学習をめぐる近年の動向として、まずは国の動向そして都の動向、市の動向という形で整理をしておりますが、まず国の動向では、直近、平成31年では障害者の生涯学習の推進補佐するということで、共生社会の中で、障害者がより生涯学習にアクセスできる環境づくりをするということを方向づけております。東京都も国と前後しまして同様の検討も進めているところですが、平成31年3月では、第4次東京都教育ビジョンというものが示されております。

小金井市におきましては、早くから社会教育委員会議で提言が出され、生涯学習の推進が取り組まれていたところですが、平成28年より第3次の計画が進められて、今日に至っております。

6ページ以降は簡単な統計データを掲載しておりますが、まず、人口・世帯の状況です。令和2年1月1日現在、本市の人口は12万2,306人、世帯数6万1,070世帯とそれぞれ増加傾向が見られます。また、図書館・公民館・運動施設の状況といたしましては、7ページ、8ページにかけて、それぞれ各施設ごとの平成27年度、令和元年度比較を載せております。増減がちょっと見られるところがございます。

また9ページでは、第3次推進計画の評価といたしまして、令和元年度に本市連動して実施した評価、こちらを掲載しております。11の重点プロジェクトがございまして、それに対応する22の主な事業、そして成果目標を評価の対象として、A、B、C、D評価をそれぞれの事業に対してしたものでございます。下に表がございしますが、令和2年度目標を達成している例が8事業、目標に達成していないが平成26年度数値を超えているものが5事業、26年度とほぼ変わらないもの2事業、減少しているものが5事業、評価が実施不可能であったものが2事業となっております。

こうした現状・課題等を踏まえまして、第4次推進計画に向けた課題を3つの柱で整理をしたものが10ページ、11ページとなります。「生涯学習に親しむ環境の整備」そして「地域と連携した生涯学習の推進」、3つ目が「学習活動を支え、発展させるネットワークづくり」という柱で、課題を整理いたしました。

12ページ、13ページを御覧ください。こちらに基本理念、今、空欄になっておりますが、こちら、後ほど委員の皆様にも御議論いただくことになるものとなっております。施策の方向性は先にお示ししておりますが、3つの柱に整理をいたしまして、その続く具体的施策をぶら下げ回していくということになります。

14ページですが、こちらは施策の体系です。ちょうど従来より柱の部分、また方向性の部分を含めまして御議論いただいているところでございます。それらを整理したものがこの表となっております。

15ページ以降が具体的な施策の展開として、各担当課のほうからデータを頂いたものをまとめたものとなっております。これが現在の最新の資料となります。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。

小堀生涯学習係長 すみません。追加で説明させていただきます。今、見ていただいた素案のまず14ページになりますけれども、第3節施策の体系のところ、こちら前回8月の会議では、施策の方向性として、施策の柱のところまで見ていただいて、御議論いただいたかと思うんですけれども、それを基にその次の主な施策のところについては、その後2回小委員会を行っておりまして、その小委員会の中での御意見を基に、22の施策に分かれております。

その後、15ページ以降の事業については、それぞれの担当部署に第5次の生涯学習計画のこういう施策の方向性、施策の柱、主な施策の中の事業として、第3次の計画をまず当てはめたものを見ていただいて、その中からなくなったもの、もしくは新しく増えたもの、あとは内容を一部修正していただいたものを載せております。

公民館だけは、今、現状、第3次の計画の内容をそのまま入れさせていただいておりまして、現在、公民館のほうでも中長期計画を

作成しているところで、ここの内容との整合性等も図りながら、もう一回内容を修正したいと思っております。

以上です。

原田議長            ありがとうございます。事前にお送りいただいているので、皆さんざっと目を通していただいていると思うんですが、小堀さん、そのお送りいただいたものから、どこか大幅に変更したところってありますか。あるいは大幅に加わったとか。

小堀生涯学習係長    日付以外のところは、送付したものと、全く変わっていないです。

原田議長            はい。分かりました。これまで2回の本委員会と3回の小委員会で議論をしまして、それを踏まえてこの素案が出来上がっているということでございます。主に13ページ以降のところ、何かあるか、あるいは不足・追加について等を議論したいと思いますが、もちろん、その前の部分も含めて御意見を伺いたいと思います。で、その上で、12ページの基本理念については、各委員からの御提案を基にどういう方向がいいのかということ議論したいと思います。

まず全体、この素案について、どこからでも結構ですので、何か御質問あるいは御意見等がございましたらお願いしたいと思います。

福井委員            福井です。23ページなんですけれど。1行目にスポーツ・レクと健康づくりの推進と書かれているんですけど、その下の事業名に関しまして、スポーツ・レクと健康づくりが事業名のところが非常にランダムに入っているということで、できましたら、スポーツ・レクの関係は上部に全部持ってくる。例えば、下の2行とかです。それで、真ん中の辺にあります健康づくりフォローアップという5行分ぐらいは、例えば一マス空けて健康づくりの推進というような格好でまとめられたほうが、このタイトルとあと全般的に見てもぱっと見やすいんじゃないかということで、2ブロックぐらいに分けられたほうがいいんじゃないかということで提案したいと思います。

もう1点ですね。31ページの真ん中にあるんですけど、「観光協会への補助」というんですけど、観光協会は小金井市にはありません。正式名は、右に書いていますように、観光まちおこし協会が正式名ですから、補助対象の事業名としては、観光まちおこし協会への補助ということに記載されたほうがいいと思います。

原田議長            ありがとうございます。ただいまのまず23ページのほうですが、これは担当課別に仕分して並んでいるように見えますけれども、福井委員の御意見は、それよりも内容的にくくったほうが分かりやすいのではないかと。利用者にとってはそうだと思います。小堀さん、これは何かこの各項目の並べ方、必ずしも担当課別に並んでいるとはいえないと思うんですが、いかがでしょうか。

小堀生涯学習係長   23ページについては、星印、いわゆる再掲で記載された事業の関係で、星印再掲の事業をどう扱うかという課題がありまして、第3次では、星印再掲があるものは後ろにまとめていたため、今回もそうしているのですが、もし見る中でスポーツと健康ってちょっと大きく分かれるところで、そこは分かれているほうが見やすいということであれば、今後調整したいと思います。

原田議長            富田委員、いかがですか。この仕分の仕方は。

富田委員            私は、個人的な意見なんですけれど、スポーツはスポーツ、それから健康づくりのこの健康の部分、これは分けたほうがいいと思います。

原田議長            はい。その福井さん御指摘の部分と一緒にということですね。

富田委員            そうですね。

原田議長            はい。いかがでしょう。ほかに。これに関しては。これについては、少し検討をしていただけますでしょうか。今、スポーツと健康づくり、2つに分けたほうが見やすいのでは。

小堀生涯学習係長   そうですね。皆さんの意見を踏まえて、検討させていただきます



す。

原田議長            お願いいたします。それから、31ページの表記の部分ですが、これは省略しないできちんと正式名を使ったほうがいいんじゃないかという御指摘ですね。観光まちおこし。

小堀生涯学習係長    そうですね。確認ができていなくて申し訳ございません。正しい表記を再度、確認した上で修正させていただきます。

原田議長            はい。これ、協会名を変更したときに、まちおこしがみそだったので。

小堀生涯学習係長    分かりました。

福井委員            はい。福井です。21ページと22ページの1行目のタイトルなんですけれども、例えば21ページ、「図書館を活用した学びの推進」で、22ページは、「公民館を活用した学びの推進」ということで、活用、例えば「した」という言葉。この文章的には理解できるんですけど、「した」といったら、どっちかというところと過去形のような印象を受けるということで、例えば、第3次までやった図書館で活用した学びの推進というようなイメージで取られるものですから、私の提案としては、今後10年間の運営ということで、「図書館を活用する学びの推進」と、「公民館を活用する学びの推進」というほうが、今後10年間の影響力というところの言葉としては、よりベターじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。以上です。

原田議長            はい。今のは21、22ページ、図書館、公民館の項目です。活用したというよりは活用するという、これからそれをより一層活用する学びをという意味合いを込めて、現在形のほうがいいんじゃないかということになります。これはいかがでしょうか。

富田委員            この図書館の中の下から4つ目に大学図書館の利用という欄があるんですけども、これ、決定事項なんですか。それとも使えるといいなということなんですか。

原田議長           これは既に使えているんですね。

富田委員           図書館に行くときに、何か持っていくものはあるんですか。

菊池図書館長      はい。小金井図書館の利用カードをお持ちの方であれば、本と同じように大学図書館の、農工大学と東京経済大学と協定を結んでおりますので、大学図書館が利用できる利用カードを貸出しをします。そのカードを持って大学のほうに行っていただいて、貸出しを受けることができますので、御利用下さい。

富田委員           承知しました。

菊池図書館長      ちょっとコロナの関係で、今は現在休館中となっております。

富田委員           はい。ありがとうございます。

原田議長           これは市のほうで、それぞれの大学の利用券を発行してくれるんですね。

菊池図書館長      はい。

原田議長           学芸大が入っていないのは、学芸大学が利用券を発行してくれるからですね。

菊池図書館長      そうですね。学芸大は市民の方に貸出しを大学のほうでしていますので、市のほうで紹介状とかも発行していません。

富田委員           では、いきなり向こうへ行ってもいいわけですね。

菊池図書館長      当日使えるかどうか分からないんですけども。

富田委員           はい。承知いたしました。

原田議長           「活用した」という言葉は、ほかにも何か所か「活用した」とい

う、必ずしもこの「した」と書いてあるから過去のということでもないと思うんですが、「活用する」のほうがいいのではないかと  
いう御意見でございます。ちょっと検討をお願いします。推進の気持ちが出るかと思しますので。

小堀生涯学習係長 そうですね。検討いたします。

原田議長 はい。そのほか、どこでも結構です。14ページ以前の前のところを含めて何かお気づきのところ、御意見。はい、どうぞ。

柴田委員 よろしいですか。5ページの(3)小金井市の動向なんですが、これ多分、下から2行目は変換ミスですよ。ね。「未来へ発展させる」なんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

ジャパン総研 はい。誤字でございます。「未来へ発展させる」となります。

柴田委員 今の部分なんですが、その前に「小金井らしさを継承し、未来へ発展させる」とありますが、小金井らしさという言葉が、ここで初めて出てきますが、私たちは、小金井らしさというと、何となくこうイメージを持っているんですけれども、例えば、市外の方がこちらを見たときに、小金井らしさって何だろうっていうふうに感じると思います。そこで、例えばですけれども、小金井らしさっていうのは、市民力が高いとかそういった意味があるのかなと思いますので、例えば、小委員会するときにも発言したんですが、小金井市では、公民会の企画実行委員会がこの地域の中でもいち早く公民館条例と共に制定されているというような実績もありますので、そのような内容のことをここで含んで、小金井らしさと表現したらいかがでしょうか。

小堀生涯学習係長 はい。今いただいた意見を基に追記させていただきます。

原田議長 小金井らしさのところを少し具体的に書き加えていただくということですね。

ほかの皆さんいかがでしょうか。ちょっと私から質問です。細かいところで、33ページの市史編さんの項目に「市史の発刊に向け

た」と書いてあるんですが、市史はあれ、去年かな、立派なものが  
出ていますけど、これは次の市史という意味でしょうか。はい。ど  
うぞ。

関生涯学習課長 では、生涯学習課長です。いわゆる大きい意味の市史というのは、  
平成30年度で一旦区切りになったんですけれども、そこで終わり  
ということではなくて、それまで市史編さんを通じて集めた膨大な  
そういった資料等まだございますので、例えば具体的に言ってしまう  
と、年表編だったり、索引だったりというところで、少し形を変  
えた形で市史、発行していくということを考えております。

原田議長 本編の市史ではなくて、それに附属するような資料ということ。  
資料編ってことですか。

関生涯学習課長 そうですね。いわば資料編というか、はい。今申し上げた年表、  
索引とか、あと、ちょっと将来の話になりますと、例えば子ども向  
けのものだとか、そういったことも少し形を変えた形の発行かなと  
いうふうに考えております。

原田議長 はい。何かこのままだと、あれ、また、この間出たばかりなのに  
また出すのかなって思いますので、括弧づけで何かつけたほうがい  
いかなと思いました。

関生涯学習課長 そうですね。この内容のそういった制限、多分文字の制限はある  
かと思うんですけれども、今御指摘いただきましたので、少し考え  
たいと思います。

福井委員 19ページの5行目に「起業相談・セミナー開催」ってあります  
よね。それを39ページにあります「相談体制の充実」というところ  
の項目があるんですけれど、同じ、2回出てくる場合は星印を明  
示して、全部この表をまとめているということで、できましたら、  
この39ページの相談体制の中にもこの「企業相談・セミナー開催」  
ということも2、4、5行、今は39ページに書かれていますけれど、  
星印を入れて掲載されて、同じ相談体制の充実という意味合い  
で加筆されたほうがいいんじゃないかと提案したいと思います。

原田議長            はい。39ページの22という、これ、最後の項目ですけれども、「相談体制の充実」。これも、それまでのページで出てきた様々な相談事業が再掲されるということになるろうと思いますが、これは、ある相談は載っていて、あるものは載っていないというよりは、今、福井さん御指摘のように、全部ここに再掲するというのがいいのかなという感じがしますが、どうでしょうね。これ、何か選択の基準ありますか。

小堀生涯学習係長    内容が相談体制の充実に入るものでしたら入れられると思います。御指摘いただいた内容で検討させていただき、相談体制の充実で問題なければこちらに再掲いたします。

原田議長            利用者からすると、この最後のページの相談のところを見ると全部相談の宛先が分かるというのが便利だと思いますね。

小堀生涯学習係長    そうですね。はい。分かりました。

原田議長            34ページ、35ページのところなんですが、内容的にはいいと思うんですけど、この「支援者の人材育成とコーディネート機能の充実」という柱ですから、18番のほうの方が先に来たほうがいいのかという印象を持ったんですが、いかがでしょうか。この、まず、17番は、市外との連携というのが先に来ていますけれども、それよりはむしろ35ページの18番のほうを先に。印象づけるものなんですけれどね。これはいかがでしょう。これ、この市外との連携を先にしたのは何か理由がありますでしょうか。

小堀生涯学習係長    原田議長がおっしゃられるように、順番としては、18が先に来ていたほうがいいのかと思います。

原田議長            そうですか。はい。よろしくお願ひします。それから27ページ。これは、前回空欄になっていたのに、それぞれ、図書館、経済課の取組が入りました。図書館から電子書籍の貸出し。これはあれですか。図書館長、電子書籍はいわゆる視覚障がい者以外の健常者も利用できるということですね。

菊池図書館長 はい。8月の議会で予算を要求しまして、可決いただいております。一般の方も御利用いただけるものになりますので、一応、今年の12月からスタート予定で準備を進めています。

原田議長 ではこれはまさに、この5年間の前進ということになりますね。それから、経済課からのもので、Webを使ったオンラインを活用した講座あるいは、これ、講座とスクールって何か違いがあるのでしょうか。2つ分けて書いてありますけれども。

小堀生涯学習係長 オンラインについて、担当課の方ではまだ検討中だとはいう話ではあったんですけど、こういったものを考えているようで、内容については、消費者スクールのほうは市内小中学生が対象で、消費者講座はもうちょっと幅広くということで聞いておまして、それをオンラインでやれるように、考えているということでした。

原田議長 はい。分かりました。講座は一般消費者、大人向け。スクールは小中学生向けということですね。

小堀生涯学習係長 そうですね。

原田議長 はい。これは、内容にそれが入っていたほうが分かりやすいかな。

小堀生涯学習係長 そうですね。このままだとちょっと。訂正させていただきます。

福井委員 福井です。例えば、36ページの2行目に書かれているように、図書館・公民館・スポーツ施設という羅列になっています。この事業名もできましたら1行目に図書館、2行目に公民館、それとあと真ん中辺に公園などの整備というような羅列になっているんですけど、これを例えば一番下に持ってくるとか、もう少し、施設を中心にまとめると。

あと、公園なんかの整備というのは、施設の活用なんですけれど、ちょっとこの言葉の公園などの整備という整備の言葉が、活用とかにならないかなと思います。また、下から2行目にあります「歴史ミュージアムの整備」とされているんですけど、一般市民がこの

推進計画で整備っていうのはどういう意味合いかというのがピンと来ないのではないかと思います。あと1行目にあります「スポーツ・レクリエーション施設」の主な内容で、「総合体育館、栗山公園健康センターなどの管理」という言葉も、活用とか利用に修正されたほうが良いと思います。

以上です。

小堀生涯学習係長 そうですね。まず、順番については、さきほどのスポーツと健康のところもそうだったんですけど、星印再掲をどう考えるかというところが一つあったので、全部星印を後ろに持ってきているんですね。ただ、再掲しているだけだといえは再掲しているだけなので、あくまでもその順番としては、まとまりごとになっていたほうが見やすいんじゃないかという考えもあると思いますので、内容を重視しながら、ちょっと順番を入れ替えるということとで考えます。あと、整備の表現のところと、スポーツ・レクリエーション施設の管理という言葉については、もう一回担当課と相談したいと思います。

以上です。

原田議長 はい。ありがとうございます。ほかにありませんでしょうか。37ページの20番「生涯学習センター機能の整備」という項目ですが、これは前期の計画の中でもありまして、これは、建物とか何か施設を造るということではなくて、あくまでも機能であるという確認をしました。この社会教育委員の会議の中でも、そういう意味ではあれですね。ホームページ、Webを活用した検索機能というものを重視することが、この学習センター機能になるんじゃないかと、こういう議論をいたしました。そういう意味ではここに挙がっているのは、これはあくまでも場所ですよ。場所でもあり、物であるので、生涯学習に関する情報の検索機能の充実というような項目を入れたほうがいいんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

小堀生涯学習係長 そうですね。ちょっとまだ文章のところまで全部うまく反映できていなかったところがあったので、文面のみで記載するか、事業のところに入れるかっていうところで検討していたところがあり





になりましょうか。

小堀生涯学習係長　そうですね。なかなか数字以外のところで、進捗を把握するのが難しいところがあると思いますので、現状の値と目標の値をそれぞれ数値として出して、進捗を図る予定です。

福井委員　　はい。福井です。先ほど49ページの計画の表があったんですけど、2行目というか、現状の2つ目の20.5%と、41ページの2段目で現状の数字が20.5%。その下に(4.9%、15.6%)と記載されているんですけど、多分、その備考欄に書いてある「満足」が4.9%で、「やや満足」が15.6%で、現状20.5という理解でよろしいですか。

ジャパン総研　　そうですね。

福井委員　　それでしたら、この現状の数字は、20.5だけ書かれて、備考欄に「満足(4.9%)やや満足15.6%」と記載されたほうが、上の段の括弧の数字が理解しやすいと思います。  
　　以上です。

原田議長　　はい。これはこの項目を検討されるときに、今の御指摘も踏まえてください。それと、表記を分かりやすくしていただきたいとします。  
　　はい。この素案については、今後どういうスケジュールで詰めていくことになりましょうか。

小堀生涯学習係長　　次回の会議が11月16日になるかと思うんですけども、今回でいうと、一番後ろの43ページのところにある資料編のところの整備、公民館から提出される内容、あと本日の意見を基にして修正等を加えて、内容をもう少し精査したものを、次の11月16日の会議にお出ししたいと思うのですけれども、会議の前に案として送らせていただきたいと思いますと思っています。  
　　以上です。

原田議長　　ありがとうございました。それでは、委員の皆さん、これはまた

じっくり読んでいただいて、その上でお気づきの点ありましたら、これからも意見を出す機会がありますので、よろしくお願ひします。

で、この計画について、先ほど申し上げましたように、12ページですね。「計画の基本理念」のところ、これを、これまで検討した施策の内容を踏まえて、どういう言葉で表したら一番よろしいかと。キャッチフレーズのようなものですがけれども、次にこれを検討したいと思います。

資料、推進計画における目標(基本理念)についてということで、裏表、全部で14の案が出ております。各委員からお寄せいただいたものですので、これをちょっとそれぞれの御提案の委員から、簡単に説明をしていただきたいと思います。まず、福井さんお願いいたします。

福井委員

はい。福井です。私はこの1番、2番、3番、3つを提案させていただきました。考え方としまして、第2次、第3次の同じ目標の基本理念の言葉をヒントにしまして、例えば第3次の場合、「学びの継承 未来の創造」、これが主題で、ハイフンの後、副題的に「学びをつなぐ 人・まち・小金井」というようなスタイルがあるということで、私自身もこの第2次、第3次のイメージを推奨しまして、2段に分けております。主題及び副題と。

で、一番上は「学びの継承 ふれあいの笑顔」それでハイフン入れまして「共に学ぶ 人に愛される小金井」というのを1番目。で、右のほうに理由及び意味ということで、次世代に学びを継承することで、ふれあいの笑顔が実現することになり、共に学び人に愛されるまちを目指すという意味合いを持っております。

2番目の「学びの挑戦 笑顔の未来～共に学ぶ活躍できる小金井～」。意味としまして誰もが学びを通してより豊かな明るい笑顔の未来を創造することで、共に学び活躍できるまちを目指す。この2つが1日、2日考えましてすぐ提案したんですけど、1週間後、もう一回ちょっと見直しましてこの第4次の基本理念としては、子どもというのが一番重要なキーワードじゃないかということで、子どもの子ということの一つ入れ直しました。

で、3つ目が、「学びで育つ 未来の子に～共に学ぶ地域共生の小金井～」と。内容は、全ての世代が学びを通して、自分らしく生きる子どもたちを育成することで、共に学び地域で自立する共生の

まちを目指すということを提案したいと思います。

考え方としまして、先ほど説明していただいた基本政策の項目として、1番に「誰もが生活学習を親しむ環境づくり」、この第1ブロックの施策の方向性でキーワードは何かと思えば、学びという言葉が出てきました。ですから、1行目に学びということを入れたというのと、2番目の重点施策の施策の方向性としては、言葉としては「地域と共につくる生涯学習」、これを全て見直したら、共に学ぶという言葉がキーワードとして出てきたということで、2行目に「共に学ぶ」というのを副題のところの頭に持ってきたということで、学びというのと共に学ぶというのが、施策の方向性の1番、2番に共有するんじゃないかというのが1つ目の提案の言葉を選んだということと、もう一つ、今後10年間、第4次計画においては、先ほど言ったように、子供というのがキーワードだと思います。それで、子供の教育というのは、小金井市の第5次基本構想の6つの柱の中にも子供と書かれているのは「子どもと教育」ということで、6つの柱の1つになっていますし、もう一つ教育関係でいいますと、「文化と生涯学習」というのも定義されていますけれど、子どもが非常に重要じゃないかと。しかも、先ほどの提案の中の「地域学校協働活動」で、現状は緑小1校なんですけれど、今後10年間に14校を設けるということで、子供というのも非常に重要なキーワードの1つであるというのと、あと6月の予算でGIGAスクール構想ということで、7億3,000万円の予算を承認されまして、小中学生6,300人にパソコン1台ずつ提示するというので、今後10年間、子どもの教育ということも小金井市全体に考えているんじゃないかということで、未来の子ということを提案したいと思います。したがって、1、2、3あるんですけど、3つ目を私は推奨したいと思います。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。共に学ぶというのをキーワードにして、特にその子供たちへの継承、育成を重点に置きたいということで、3つあるうちの福井さんは3番目のものが一番ということですね。

福井委員

はい。

原田議長            ありがとうございます。所先生は本日欠席ですが、御覧のように、「人生100年時代を楽しむ～学びでつながるまち 小金井～」という内容です。高齢化社会で、生涯学習がますます重要になるということをまず表したと。それからネットワークづくりが重要だという施策の方向性があるので、それを「学びでつながる」ということに込めたということでございます。

小堀生涯学習係長   所委員から以前、お話伺ったときには、やっぱりこの時代、人生100年時代という言葉キーワードにしたいということをおっしゃられていたので、それを基に書かれているんだと思います。

原田議長            人生100年時代をキーワードにしたいというんですね。はい。次に、私の5と6は、これは3つの施策の方向性、誰でも学ぶあるいは地域の力をつなげる、それからネットワークを活用して人材育成をすると、この3つの柱を込めたらどうだろうかということで、それによって、いつでも誰でも学びを楽しめるようにしようという意味を込めております。

5と6の違いは、そのあれですね。「広がる・つながる・育てる」というのを漢字にすると「共生・協働・継承」みたいなものになるのかなということでございます。

今日改めて素案の解説を伺って、いつでも誰でも、どこでもというのは、最初の計画からずっとキャッチフレーズになっていたという。これが一番の基本だから変わることはないと思いますが。そういう意味ではちょっと今見ると、これだと何か変わっていないような気がしないでもないなという感じがいたしました。

富田委員、お願いします。

富田委員            富田です。私は7番と8番出させていただきました。人生100年という、まあ最近では120年とか言われていますが、いかに健康に生活ができるかと、健康に生活するためには学びが必要だと。学びがあれば、健康な頭で心身共に健康に過ごせますよということを大々的に打ち出したんですけども、その中で学びというのはいつからでも始められるんだけれども、学びというのは本当は楽しいことなんだよね、楽しいことなんだよというのをですね、実感してもらいたいなど。

それが小さいときから実感してもらえれば言うことはないんだけれども、それは年いってからでも、いや、何かを知ることは楽しいんだよね、楽しければ続けられるんだよね、面白くなければまた新しいことを考えればいいんだよね、その繰り返しで、人間というのは僕は健康になっていくんだろうなというのを込めて、心身共に健康でいられるために、学びの楽しさを、これで簡単なほうがよかったかも分かんないんだけど、学びの楽しさを実感しましょうよねというのを提案させていただきました。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。学びを楽しんで継続するということで、健康につなげようという趣旨でございます。

それでは、森本委員お願いいたします。

森本委員

はい。私の提案は、ナンバー9と10でございます。9と10の目標、基本理念として掲げたものは、実は一緒でございます。人生100年時代という言葉の基本理念、人々の目標として掲げたいと思いました。9と10の違いは、内容的には全く一緒なんですけど、どちらの表現が、または両方を合わせて一つに作り直して、理念として掲げた言葉が、見たり読んだりしたとき、イメージとして好印象で具体的イメージとして皆さんの中に入っていかうか考え、迷いましたので、2つ出したということです。

それで、この人生100年時代のこの文言は、先ほどの説明にございましたように、第4次推進計画の素案の1ページの趣旨の中には既にはっきりとございましたし、また、3ページの国の動向にも、早くからといいますか、3次のところからございました。近年、平均寿命の伸びにより、人生100年時代を迎え、学生時代だけでなく、人生において常に学びに触れることが大切というふうにうたっております。ゼロ歳から100歳までと、そんなイメージを持ちながら、いっぱい学び、体も鍛えて、そしてみんな支え合って、楽しく生活していく環境の中で、自分自身が夢に描く理想像を構築して、実現に向けて日々生活していけるような、そんな思いを心に秘められたら、またそんな活動に参加したり、実行していったらすばらしいという思いを込めております。

以上です。

原田議長            ありがとうございます。人生100年時代を楽しむために、学んで鍛えて支え合ってつなぐと。こういう趣旨でございます。  
では、裏面に参ります。城委員、お願いいたします。11番です。  
城さん、お願いいたします。

城委員              はい。人生はもう100年時代を迎えているので、楽しく過ごすために、学んで、いろいろなものを学ぶことによって、楽しさも増し、育てていき、他人を思いやる心も、支え合うのができるのではないかなということで、それを目指す小金井ということで提案しました。

原田議長            はい。ありがとうございます。人生100年時代ですね。それでは、長坂委員、お願いいたします。12番、13番の御説明。

長坂委員            まず、皆さんのを見て、全ていいなと思います。ただし、私の考え方と多少違うんです。なぜかという、一つは皆さん学ぶということに対してどういうふうを考えているかという、これはよく皆さん、出ているんです。これ、学校教育をベースにした考え方だったと思うんです。生涯学習というのは、学校教育だけではないわけですね。いわゆる学び方が分からないのが問題であって、皆さん御承知のとおり、トフラーが、これからの社会において、文盲、字が読めないという人は意味が違ってくると。それは読み書きができないということではなくて、学び方を知らない、学び方が分からない人を文盲というんだということを言っているわけで。それに対して、学ぶは学ぶと書いてあれば、何かみんな学んだように気になるけれども、先ほどの計画にもありますけれども、全て具体性があまりなさ過ぎるという。一番迷っているのは、どうしたらいいかという人たちなんですね。

そういう意味において、やや理屈っぽいかも知りませんが、あるいは目標としたら長いかも知りませんが、「生涯にわたり有意義な人生を生き抜くための『生活の知恵』を習得する工夫と努力」というふうに書いたわけです。それを今申しましたように、これは、学習対象は森羅万象でございます。全てというか、学びは学校教育だけではないと。だから、あえて例を出せば、吉川英治か宮本武蔵か分かりませんが、「我以外みな師」という

ような考え方、あるいは生涯学習のことをlifelong integrated educationといいますけれども、そのintegrateというところにポイントを置くと、今私が申し上げたような生活の知恵を学ぶんだということ強調したらいかかかなと思っております。

それから2つ目は「デジタル化時代に必要な知識の習得と生活様式の改革」。これは、政府がデータ化を言うまでに私はこれ、書いているんですけども。人生100年、私もそれにおける生涯学習ということも言っておりました。既に言っておりました。数年前から。だけれども、考えてみると、自分がそれに近い年になって考えますと、それを経験していない人に分かるわけないんですね。みんなユートピア的な無責任な、何か人生100年たつともっと今よりいいような生活が営めるように思うと思うんですけども、実際、私が今、施設、そういうところへデイサービスで行っています。大勢100歳以上の方お会いしています。その方の生き方というのを、皆さん全部こうやってヒアリングしたら、考えが変わると思います。もともね、もう切実なものです。

まず、一番は健康ですよ。健康。2番目は経済的な問題です。そういうために、その中でどういうふうに生きるかということをお教えないと駄目です。つい数日前の新聞もあったと思うんですけど、高齢者の買い物貧者ですか。お寿司を食べに行っても、お寿司食べられないですね。何かこうタブレットですか。言葉で注文できないですよ。要するに頼めないからもたもたしている。そういう全ての状態がそういうことになっていますから、もっとデジタル化時代に備えた必要な知識の習得と生活様式の改革というようなこと。先ほど申しました語呂が悪いです。皆さんの基本理念としては、ちょっと説明っぽくなると思うんですけども、こういうことです。

で、ここに書いてありませんけれども、あるいは今日のいろいろな計画出てきておるんですけども、具体的には、いわゆる生涯学習相談室、窓口というようなものを、いろいろ情報機関が発信するとか何とかいっぱい書いてありますけれども、これは個別です。これはもう病院の診察と同じで、一人一人そのニーズは違うと思うんですけども、その辺を発信できるように。どんどん学ぶにしてもいいです。それから毎日でなくてもいいんです。あるいは文書でもいいし、方法はいろいろあると思うんですけども、とにかく迷っている人が大勢いるんです。先ほど申しました生涯学習、仕方が分

からない、何をしたらいいか、何をどうしたらいいかが分からないですね。それをただこう一方的にこうやったらやった、いくら言っても、それはなかなか実らない。ただむなしさが残るだけだと思う。

そういう意味で、もうちょっとこう、近寄るといいますかね。もっと歩み寄るといいますか、そういう何か施策を出さないと駄目です。で、もう皆さん、釈迦に説法ですけれど、ゆうべも私は考えました。なるほど、人生50年の時代のことはみんな一応分かっているし、制度があるんです。制度。保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学まで。そういう制度から企業に行っても、企業内教育も随分長いですから、重要です。やっています。その制度があるところについては、いろいろやればいい。あるいはやらなくてもいいんです。今も文科省があれだけ細かいことを言っているんですから、むしろやらなくても、我々はやるべきことは、その後、年齢は何とも言えませんが、仮に60歳以上の人、人生100年というのはあと40年あるわけですね。それに対して制度がないから、みんなウヨウアヨウしていて、決め手がないまましていると思うんです。ここをどういうふうに捉えてやるかというのが、やはり我々の立場というかじゃないかなと反省を込めて考えております。

以下はちょっと長くなりましたけれども、そういう考えでこれを書きましたので、御理解いただければ幸いです。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。生涯学習のポイントは、その生活の知恵を学ぶと、生き抜くためのということ。それから中でも、これからはデジタルの知識が必要だと。こういう思いを込められたということでございます。

最後になります。諏訪委員の14番、お願いいたします。

諏訪委員

言い回しを変えているだけで、大体皆さんが言われているのと変わらないんですが、一応、掲げる理念、目標ということで、シンプルに考えて、一般的に言われている5W1Hのうち、Why、なぜ、それからHow、いかにというのは、こういう理念を掲げること全体に係るということで除いています。したがって、誰もがいつでも、皆さんも言われていますし、それに加えて、どこでも、要するにどこにいても、それから何でも、どんなことにでも興味を持とう



という意味で、その2つを付け加えています。ただ、「地域の輪」という言葉は、ちょっとあんまり本人がいま一つピンと来ていない言葉ですので、何かあればそのうちまた御提案します。

以上です。

原田議長            ありがとうございます。「何時でも 何処でも 何でも」それから「地域の輪」というのを全て込めたということですね。

皆さんの御説明終わりました。これの上で、それぞれの御自分以外のものについて、御質問とかあるいはこれはこういうところがいいなという御意見を出していただきたいと思う。いかがでしょう。柴田先生。

柴田委員            はい。私ちょっといろいろ考えている間に案を出しそびれてしまったんですけれども、人生100年時代とか、あと共に学ぶとか、支え合いとか共生とか、地域の中で、長い人生の中で、みんなで学び合っていこうよというような機運を高めるようなものがないと思いました。

で、そういうキーワードがたくさん散りばめられているので、どれか1つにというよりは、いいところを取って組み合わせていくのを一つ案なのかなというふうに思いました。

以上です。

原田議長            ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。今の御意見にもありましたように、人生100年時代という言葉が、それをそのまま使っているのと、それからそうじゃなくても意味が込められているものとありますけれども、それが共通しているのかなという印象ですかね。これはなかなか難しいですね。ここから選ぶというのはね。どうでしょう。もう少し皆様の御意見を伺った上で。各委員の思いあるいは込めたい気持ちというのは分かっていたかと思しますので、事務局とそれからジャパン総研さんにお預けして、これを基に何か2つ3つ案を考えていただくというのはいかがでしょうか。はい、どうぞ。

関生涯学習課長    今、委員の皆様からいただきましたそれぞれのお考え、拝聴いたしました。今すぐに、この中から1つを選ぶということはやっぱり

厳しいなという思いがございます。柴田副議長からお話あったとおり、それぞれ根底につながっているキーワードがあるのかなと思ひまして、それを拾い上げた上で、1つを決めるという形で、事務局、あとジャパン総研さんとの御意見を伺いながら、また、場合によっては正副議長にも御相談させていただくって形でよろしいでしょうか。

原田議長

はい。皆さん、いかがでしょうか。はい。じゃあお預けをすることになるので、よろしく願います。各委員の思いが込められておりますので、酌み取っていただいてよろしく御検討ください。

それでは、生涯学習推進計画については以上ということで、次に、第5ブロックの研修会についてですね。に移ります。これは資料1でいいですか。小堀さん、御説明お願いいたします。

小堀生涯学習係長

はい。まず資料1ですけれども、9月に他市の方に送らせていただいた通知文です。送付前に、講師をしていただく結城育子さんと話し合いをした中で日程等を詰めていって、こういった形で通知文を送らせていただいています。

第1部、2部みたいな形で説明させていただきますと、第1部に江戸糸あやつり人形結城座の結城育子さんに講演と、あとちょっと体験を含めたものをしていただいて、休憩を挟んで各市からの発表をいただくということで、全体で2時間程度を考えておりますが、こういうコロナの状況ですのであんまり長くならないように考えています。2枚目につけたアンケート調査を各市に送っております。こちらに記入したものを後日各市から出していただくんですけれども、発表用にパワーポイントとかそういったものを1つずつの市で作るということになると、人が集まらなければいけないかもしれませんが、負担も大きくなるため、そういったものはなしにして、このアンケート調査を基に、口頭で各市説明をしていただくということを想定しております。

資料2なんですけれども、こちらについては、9月16日に原田議長と私とあと文化財係の高木で結城座さんのほうにお邪魔して検討した課題や対応案、そして今後ちょっと決めていただく役割分担とタイムスケジュール、机の配置等を書かせていただいております。一番後ろに、小金井市以外の第5ブロック研修会の出席者の状

況があります。

以上です。

原田議長            ありがとうございます。今の出席、現時点でのこれは返事が来ている人数。これで全部来ているんですね。

小堀生涯学習係長    そうですね。各市から回答をいただいております。

原田議長            はい。合計45人ですから、結城座の皆さん3人を入れて48人で、ちょうど収まるという感じでしょうかね。

小堀生涯学習係長    そうですね。もしかすると当日欠席となる委員の方もいらっしゃるかもしれないので、最大でその人数かと思います。

原田議長            はい。同じ資料の後ろから2番目に萌え木ホールの配置についてというところが出ております。通常、萌え木ホールはAとBでそれぞれ会議室のようになっておりますが、これをAとB、1つにしまして、スクリーンに向かって絵に描いてあるような形で椅子だけを並べる。テーブルは使わないということですね。で、なるべく椅子が互い違いに、市松模様になるようにして、間隔を空けると同時に、人形がよく見えるようにという。結城座さんのほうからの御指摘がありまして、このように並べたら人形もよく見えるのではないかということですのでそういうふうになります。

                      プロジェクターでもって、実際の公演の様子は見せていただく。人形は3体ほどお持ちいただき、お話の後でそれぞれ体験をしていただく。糸の動かし方とか重さとか大きさとかを体感していただくというような講演になるわけであります。

                      それから、その前のページですね。役割分担、タイムスケジュールというのがございます。括弧の中が空いているところに各委員が割り振られて入るのかな。今決まっていますのは、司会は城さんをお願いするというので、開会の挨拶は私がやります。各種の発表と閉会の挨拶は柴田副議長をお願いするというところが決まっております。そのほか、受付や会場案内あるいは人形の体験というところで、割り振っていきたいと思いますが、これ、当日、11月22日は来られませんという方、いらっしゃいますか。皆さん、大

丈夫ですか。後でも結構です。それで、このような割り振りが  
ありますよということで、次回、もう一回本委員会がありますね。

小堀生涯学習係長 そうですね。ちょうど、約1週間前ぐらいに。

原田議長 1週間前ぐらいなら、そのときに確定で大丈夫ですね。

小堀生涯学習係長 大丈夫です。特段。ちょっと人数を知りたいので、もしも欠席  
かということが分かっている場合は、教えておいていただきたいで  
す。

原田議長 今の時点でちょっと出られませんという方はいらっしゃいますか。  
大丈夫ですね。今。日曜日の午後という出にくい時間ですけども、  
よろしくをお願いします。そうすると、城さん、柴田さん、私を除い  
て、5人いますけども、あと御欠席の2人も含めて、5人ないし7  
人ですので、括弧の中は埋まるということですね。小堀さん、そう  
いうことで。

小堀生涯学習係長 はい。

原田議長 はい。で、これはいずれの役でも、当日、別にそんなに早く来る  
必要はないですね。

小堀生涯学習係長 そうですね。

原田議長 集合時間は何時になりますか。

小堀生涯学習係長 一応、1時半から受付開始予定なので、その1時間前の12時  
半に集合していただきたいと思います。ちょっと時間的に余裕があ  
るかもしれないんですけども、来ていただければと思います。

原田議長 はい。タイムスケジュールのところに書いてあります12時半に  
設営開始ということで、この時点で出席の委員の方はお集まりいた  
だいて、当日の役割に応じてそれぞれやっていただくということで。  
会場の椅子の設定とかプロジェクターとかいろいろありますけれ

ども。プロジェクターについてはあれですか。機械に詳しい職員の方いらっしゃる。やっていただけるんですか。

小堀生涯学習係長 そうですね。

原田議長 それから、午前中にあれでしょうか。結城座に行って何か荷物を運ぶとかそういう仕事がある。

小堀生涯学習係長 そうですね。高い台に立たないと、人形の様子が全然見えないってことなんで、台を一応お借りする予定で話をしてしまして、それについては職員のほうで伺って、台をお借りして運ぶという作業を午前中のうちにしようと思っています。

原田議長 はい。あとは、このスケジュールでいうと、教育長はオーケーですね。

小堀生涯学習係長 はい。大丈夫です。

原田議長 この長畑副会長は、都市社連協の副会長であり、今回の出席メンバーということですね。

小堀生涯学習係長 はい。で、あと、来年の幹事市の狛江市の議長さんも御出席いただけるということは確認しております。

原田議長 もう御依頼済みという。はい。分かりました。これについて、何か御質問ありますでしょうか。現状の感染拡大状況ですと、この予定どおり開催ができると思いますが、こればかりは分かりませんので、直前のところの状況を見て、最終決断ということになると思います。じゃあよろしく願いいたします。

じゃあ、研修会については以上でよろしいでしょうか。それでは、3番、その他でございませうけれども、これは事務局何かありますか。

小堀生涯学習係長 特にないです。

原田議長 はい。報告事項1、関東甲信越静の社会教育研究大会について、

これを事務局お願いします。これ、資料3かな。

小堀生涯学習係長 資料3ですが、こちらは2名の方、今回福井委員と森本委員が手を挙げてくださったんですけど、お二人が新潟に行くという形式の大会はなくなりました。今後、紙面と動画配信を基本として実施すると聞いておりますので、また後日連絡があるかと思えます。その時には、改めて御連絡したいと思えます。

原田議長 はい。それでは2番ですね。都市社連協の交流大会、12月に予定されていたものです。これについてお願いいたします。

小堀生涯学習係長 はい。こちらは資料がありませんが、拡大役員会というものが9月に開かれまして、そのときに、12月に通常実施されておりますこちらの交流大会、研修会については、会場の問題とかいろいろありまして、中止ということで決定しましたので、お伝えいたします。

原田議長 はい。ありがとうございます。3番、その他で、関課長お願いいたします。

関生涯学習課長 はい。生涯学習課長です。報告が1点ございまして、民法改正後の成人式、式典の在り方です。2022年4月以降ですね。この件につきましては、この会議でも場でも御協議いただきました。あと、成人式に参加された当事者に、今年、去年、2カ年にのぼってアンケート等お伺いしながら検討してまいりました。

市としましては、民法改正後の式典の在り方、式典につきましては、現状どおりということで、年度中に20歳になる方を対象として行うということといたしました。で、引き続きの検討課題として2点あるかなと思っております、まず1点目は名称ですね。今、成人の日記念行事という言い方ですけども、この名称をちょっと変えたほうがいいかなと思っております、例えば20歳の集いだとか、何らか、はたち、20歳という言葉を入れたほうがいいのかなどは思っています。これは引き続きの検討事項です。

もう1点が、式典は今、申し上げた形なんですけど、いわゆる成人は18歳になって成人になりますので、成人になられた18歳の方

たちに対しての意識づけとございますか、動機づけとかございますか、何らかの仕掛けは必要かなと思っていて、例えばですけれども、市長からのメッセージだとか、そういうことがあるかなと思っておりますが、これも引き続きの検討事項かなと思います。

以上2点が、引き続きの検討事項というところで、御報告させていただきました。以上です。

原田議長

はい。ありがとうございます。そのほか何かございますか。はい。福井さん。

福井委員

はい。福井からその他で2点。1点目は、生涯学習課、部長、課長にお願いしたいんですけど。SOCOLAの歴史ミュージアムに関してなんですけれど、一般市民が市報等を見て、歴史ミュージアムがあるということで認識されておりまして、たまたま市民からの声をじかに聞いたんですけど、場所が分からなかったということで、御存じのとおり、広場とか反対側の郵便局側にもインフォメーションのガラス張りの告示板があるんですけど、4階はアフタースクール、あとクロスガーデン、その2か所しか記載がないということで、歴史ミュージアムはどこにあるんだという問い合わせが、複数の一般市民から私のほうに問い合わせがあったり、お話しする機会があったんです。なかなか難しいんじゃないかと思うんですけど、できたらああいうインフォメーションの中に入れていただくか、またはこれは、会場のチラシなんですけれど、ここに1行、4階のアフタースクールのクロスガーデンの横にでも歴史ミュージアムという記載があれば、少しは理解していただけるんじゃないかということで、提案いたしたいと思います。

あと、4階のその歴史ミュージアムを高木さんに聞きましたら、状況を見て入れ替え等をしていくということも聞いているんですけど、例えば、今現在陳列しているものは、期間が2020年度3月まで展示して、4月から入れ替えますとか、何かインフォメーション的なものがあれば一ついいのかと思います。また現在、縄文土器とか発掘の調査のところのイメージが展示されているんですけど、例えば、パンフレットですね。紹介しているその内容のことがあれば、あそこは当然親子が利用するような会場ですから、例えば小学生向けのインフォメーションが、自由に持っていけるよう

なインフォメーションがあれば、やはり高齢者含めまして、より一般市民に浸透していくんじゃないかということで、もう少し紹介するチラシと、またはその陳列のあるものを紹介するインフォメーション等が会場は狭いんですけれど、提示していただければと思います。それが1点目。

あと2点は菊池課長にお願いしたいんですけれど、今現在、図書館も来館者アンケートを実施しております。それで、どの館にも置いてあるんですけれど、例えば貫井北センター、このパンフレットの来館者アンケートだけ1部置いてあるだけで、もちろん複数枚置いてあるだけで、期限が一切提示されていないんですよ。それで、緑センターに行きまして、職員の方とお話してきたら、ちゃんと緑センターは、アンケートはアンケートで置いていまして、本館で作られた、本館というか図書館のほうで作られた期限つきが、別紙で11月11日までですという提示は同じ場所に提示されているから、緑センターの人は、アンケートを持っても実施期間というのが別紙で提示されているから分かるんです。

けれども例えばほかの館、先ほど言った運営形態が違う、運用は別ですけれども、この来館者アンケートで1行ですね、末尾の最後の1行でも、実施期間ですね、9月12日から11月11日という明示していないと、アンケートの効果が薄いと思いますし、私自身、これをもらうことにより、職員に来館者アンケートを期限つきがどこも明示していないから、「いつまでですか」と聞いたら「分かりません」と言われました。2人目の方に聞いたんですけど、「ホームページに載っていますから調べてください」と言われました。で「私は11月30日ぐらいだろうと思います」と回答されて、せっかく別紙で菊池さんのほうから送られた11月11日までですよという期限つきのパンフレットは提示されていないし、職員まで浸透していないというのが現状です。

できましたら、せっかくアンケートを作られるんだったら、1行でも実施期間って設けていけば、非常に効率的なことで、一般市民は見てアンケートを実施していくということで、ぜひ、今後、作成されるときには、その旨を記載されて実施されたほうがいいと思います。

以上です。



原田議長           はい。では、2点ありますが、2点目の図書館長は、今の件についていかがでしょうか。

菊池図書館長       はい。大変失礼いたしました。各館には、同じようにお知らせをして、同じものを配布しているはずなんですけれども、もう一度確認をさせていただきます。申し訳ございませんでした。

原田議長           1点目のSOCOLAについてお願いします。

関生涯学習課長    はい。SOCOLA、4階にございますまちかど歴史ミュージアムについて御意見いただきました。ちょっと場所が分かりづらいと。確かにそのとおりでございまして、場所のそのサインっていうんですかね。その表示の仕方につきましては、今、調整中です。再開発組合さんと調整してございまして、どの程度やっていたかかっていうのはあるかと思imasので、今、パンフレット記載というのもありましたけれども、その更新するタイミングで、例えば入れるだとか、多分そういうこともあるのかなとは思っておりますので、ちょっと引き続きこれ今、調整中でございます。

それと、パンフレットというのは確かにそのとおりで、来ていただいた方に対してその情報提供というのも必要だなと思っておりますので、御意見もごもつともだと思っております。ただ、パンフレットとなりますと、また許可だったり、何かいろいろ手続きもあるのかなと思っておりますので、引き続きそれもちよつと検討してまいりたいと思imas。

以上です。

原田議長           はい。ありがとうございます。そのほか、全体を通じて何か御意見、御質問等ありますでしょうか。

小堀生涯学習係長   最後に資料4の説明をさせていただきます。今後の日程について、先ほどお伝えした11月12日から13、あと12月12日、それぞれ中止が決定したものの他に、11月20日金曜日の三者合同会議の予定が入っていたんですけれども、今回、主催の公民館から、三者合同会議は今年度行わないという連絡をいただきました。それ

を踏まえて、今後の日程については、計画の進行状況も含めて検討させていただきたいと思っています。

次の会議の11月16日開催というところは変わらないと思いますので、次回の会議までにスケジュールについて検討したいと思います。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。11月20日に予定されていた三者合同会議は中止ということですね。次回の社会教育委員の会議、本委員会は、11月16日月曜日9時半からこの場所ということでございます。

以上でございます。よろしいでしょうか。はい。

それではどうもお疲れさまでした。ありがとうございました。